NPO法人
丸亀街づくり研究所通信

経営理念　『 いのちに寄り添い　心をつなぐ 』

≪ 心をつなぐ ≫

当法人が１１月１日をもって１３年目を迎えました。１３年前に山北町の小さな一軒家でスタートした丸亀おひさま荘ですが、ホームとして何も整っていない体制の中でホームの掃除から始めました。当時ホームを利用していた子どもたちはどう過ごしているのだろうかと思いを馳せ、懐かしく思います。

アフターケア事業では、ホームや施設を退所した子たちと今も関わり続けることができ、出産を経験した若者はすっかりお母さんとなり子育てをがんばっています。小さな赤ちゃんだった子も大きくなって成長した姿をみると、微笑ましく温かい気持ちにさせてもらっています。

虐待事件が社会問題化し、令和の始まりと同時に一時保護の強化とより自立に近い形での社会経験ができる体制を目指して自立援助ホーム nature が開設され３年が経ちました。開設当初に入所していた男子たちが退所し、現在は男女混合でみる取り組みをしております。学校に通う時に外にでて見送りする時に「がんばれ」と思いながら、その子に手をふるのが好きだとあるスタッフが話してくれた事がとても印象に残っています。

昨年度から始まった子どもの声を聴くアドボカシー活動においては、子どもたちの声を聴くためにその子の信頼関係はできているだろうかともやもやしながら、アドボケイトのみなさんと活動に取り組んでいます。法人での活動が４事業に増えたことから、法人本部を作り、経理面、人事面、新拠点構想と法人を支えてくれています。

これまでの当法人を日頃からご支援ご協力して下さっている皆様方のお陰であり、厚く御礼申し上げます。経営理念にもある「心をつなぐ」を考えると目に見えないものでどうなったらそうなるのだろうかと思います。子ども、若者、おとなとの関わりの中で、共に喜んだり、怒ったり、泣いたり、悲しんだりします。その中でも、笑顔をみると自分も嬉しくなり、幸せな気持ちになります。いろいろな人と関わることはとても大変な事ではありますが、時には心を休ませながら、その人らしく少しずつ心をつなぐことをより丁寧にできればいいかなぁと思っております。

今後もスタッフ一丸となって邁進して参りたいと思いますので、これからもご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。　　NPO 法人　丸亀街づくり研究所　理事長　合木　啓雄

≪ 寄付の振り込み時期が 11 月から来年 5 月に変更になります ≫

これまで、法人の設立に合わせて寄付の用紙をお送りさせて頂いていましたが、期を年度初めに改めることに伴い、来年５月へと変更しました。これまで通りお振込みして頂いても構いません。また、ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

【 正 会 員 】 年　会　費 １０，０００円

【 賛助会員 】 個人：一口　３，０００円　　団体：一口　２０，０００円

≪ 振り込み先 ≫　ゆうちょ銀行　口座番号　０１６６０－９－６８８７０

≪　加入者名　≫　特定非営利活動法人　丸亀街づくり研究所

≪ 寄付をして下さった方々（順不同）≫

オアシス丸亀 様　中島健三 様　マルナカ松福店 様　子育てネットくすくす 様
圓通寺 様　丸亀市社会福祉協議会 様　高松市社会福祉協議会 様
香川県農業協同組合 様　たかまつ子ども食堂等ネットワーク 様　リトルマーメイド 様
沖野博道 様　シードラゴン 様　内田一美 様

※お詫び 前号で角野仁美様と記載していたのは正しくは、角野仁彦様の間違いでした。申し訳ございません。

≪ 感謝の気持ちを込めて ≫

この度は子どもたちのために、たくさんのご支援ならびにご寄付を頂き誠にありがとうございます。旬の野菜や果物、嗜好品といった食料品をはじめ、衣類、生活用品、文房具などは、子どもたちの発達や成長には欠かせないものであり、人とのつながりに対して、心の温かさを感じています。旬の野菜や果物は、食卓に“彩り”と“季節感”を与えてくれます。衣替えをすることで、季節の移り変わりを“肌”で感じることができます。文房具を使い、絵や文字を書くことで、文化や芸術に触れ、子どもたちの“生きる力”を育むことができます。誰かとつながることのありがたみや生きることへの希望を、子どもたちには感じてほしいと思っています。

広報委員　山本　真也

≪ 真如苑様より助成を頂き、リフォームできました ≫

丸亀おひさま荘では真如苑様より「自立援助ホーム支援助成」を頂きました。助成金でリビング、居室の危険な箇所をリフォームしました。「明るくなったリビングで快適になった。」という利用者の声があり、安全面でも襖の桟のささくれが解消されました。本当にありがとうございました。

第37号丸亀街づくり研究所 令和5年11月1日発行
発行者 NPO 法人 丸亀街づくり研究所
〒763-0082 香川県丸亀市土器町東８丁目 463 番地１
TEL:0877-85-3323 E-mail:ohisama@atbb.ne.jp
HP

若者独立塾
丸亀おひさま荘通信

≪ 子どもから学ぶこと ≫

令和５年１１月１日をもっておひさま荘は１３年目を迎えました。日頃よりご支援を頂いている皆様、地域の皆様に感謝申し上げます。

おひさま荘の半年間は色々なことがありました。子ども達は何度も壁にぶつかり、落ち込み、話し合い、また歩き出しました。そのような中スタッフはフォローしあいながら、諦めずに子どもたちと関わってきたと思っています。

「子どもの困りごとが軸であって、大人の困りごとが主ではない。」以前に受けた研修で心に残っている言葉です。支援に行き詰まりそうな時に頭をよぎります。答えは出ませんが、チームで支援していることで何か出来ることはある！と前向きに明るくやっていくことを目指しています。

最近、嬉しい出来事がありました。A君のある日の日記です。「私のことをみてくださりほんまにありがとうございます。これからもみていてほしいと思っています。」素直な思いで日々過ごして、ストレートに気持ちを表現できることは素敵だなと思いました。子どもから学ぶことは多くあると感じています。

今後ともご支援とご協力よろしくお願いいたします。

主任補佐　加地 三千代

≪ ワクワク ・ ハッピー ≫

７月より、丸亀おひさま荘の生活支援員として、子どもたちと関わっています。信念と希望をもって、精力的に活動させて頂いております。

アットホームな雰囲気の中で安心して生活できる環境を提供しているおひさま荘ですが、子育て経験ゼロの私にとって、子どもとの関わり方や子育てについて、深く考えさせられることばかりです。

子どもたちと接していく中で、私自身の人生観や価値観は、日々変化しているように感じます。過去の私は、人に対する苦手意識を強く持っていましたが、誰かとつながることの大切さやありがたみということを実感するようになりました。私と同じように誰かとつながることの大切さやありがたみということに感謝し、思いやりのある優しい人になってほしいと思っています。

子どもたち自身が自分軸の人生を送る時代。ワクワクでハッピーな人生を過ごしてもらえるよう『いのちに寄り添い 心をつなぐ』支援をこれからも実践していこうと思っております。

生活支援員　山本　真也

若者独立塾　丸亀おひさま荘

〒763-0082　香川県丸亀市土器町東８丁目463番地1

TEL:0877-85-3323　FAX:0877-43-6929

E-mail:ohisama@atbb.ne.jp

自立援助ホーム

nature 通信

≪ あたらしい風 ≫

自治会 秋祭り

４月から nature にお世話になっておりますが、９月から施設長という重責を担うことになりました野口孝子と申します。改めてご挨拶申し上げます。

本年４月１日「子ども家庭庁」が発足しました。子どもの養育に関わる環境は、社会的な施設だけでなく、変化してきている子育ての在り方に対し、地域に根ざした子育て相談や支援の場が広がってきているのを感じています。

nature は令和元年 11 月に開設し、早くも４年が経ちました。先日、コロナ明けで久々の開催になる秋祭りに初めて参加しました。大きな太鼓台の下の部位を動かすという大役をまかされ、汗ばみながら貴重な体験をさせて頂き、地域の皆さんとの連帯感が生まれたように感じました。また、自治会長の沖野さんに nature の行事に参加して頂きました。一緒に焼き肉を囲み、沢山の話をして楽しく過ごしました。

自治会長さんをご招待

地域の方々との触れ合いの場は少なめではありますが、自治会総会にも出席し、土器川清掃に参加してほしいと声をかけていただきました。子どもたちには我々だけでなく、いろいろな人と関わり合いながら経験を積み、成長していってほしいと願っています。今、子どもたちは力を蓄えて羽ばたこうとしていますので、これからも応援よろしくお願いします。

自立援助ホーム　nature　施設長　野口　孝子

≪ はじめまして ≫

皆様、はじめまして。７月から nature で生活支援員として勤務させていただいている増田です。子どもたちとは毎日の食事や、外出の行き帰りの挨拶で限られた関わりが多く、お互いにどこか壁がある日々でした。それでも一緒に水族館に行ったり焼肉をしたり…。普段一緒にできないことを共有できる機会もあったお陰か、今では何でもない雑談をしてくれたり、小さな悩みを相談してくれたりしつつ、本当に日々元気をもらっています。

私は子どもたちが楽しそうに話してくれることを楽しく聴き、面白そうに見ている動画を面白いと言いながら一緒に見て子どもたちが悩んでいることを一緒に悩み、子どもたちと一緒に成長していきたいと思っています。法人の経営理念「いのちに寄り添い 心をつなぐ」という言葉に少しでも近づいた支援ができるよう取り組んで参りますので、どうかよろしくお願いいたします。

生活支援員　増田　士希也

自立援助ホーム nature（なちゅれ）
〒763-0082 香川県丸亀市土器町東７丁目 208 番地 101 号室
TEL:0877-85-3375　FAX:0877-85-3376
E-mail:nature@atbb.ne.jp

アフターケア事業所

わっかっか通信

≪ 言 葉 ≫

言葉には、「ふわふわ言葉」「チクチク言葉」があります。ふわふわ言葉は、「ありがとう」「いいね」「あなたのおかげよ」等です。そう、言われると嬉しくなる言葉です。

逆に「チクチク言葉」は悲しくなるような言葉です。私は常にふわふわ言葉をかけるように、気を付けています。わっかっかの若者に、この「ふわふわ言葉」をかけると、とても嬉しそうな表情を見せます。わっかっかの若者たちの中には、幼少期から親にチクチク言葉を貰いながら育つ子もいます。言われる事に慣れてしまうと何も思わなくなって、すぐにあきらめたり、自己肯定感が低くなったりするそうです。わっかっかの若者たちが、よく口にするのが、「自分なんてどうせ…」

「自信がない」とよく耳にします。「生まれてきてくれただけで、そこにいるだけであなたはそのままのあなたでいいんだよ」と心の中でメッセージを送るようにしています。草花が育つ時のように、温かい言葉やふわふわ言葉をたくさんかけ、力強く逞しく育ってほしいと願っています。そして日々太陽のような存在でありたいと思って過ごしています。

就労相談支援担当職員　大内　実千代

≪ 開放日の半年 ≫

４月から開放日を担当することになりました。初めての出会いに、少し緊張しながら若者たちに会いました。ちょうど春の選挙投票の時で「これから、期日前投票に行く！めっちゃ緊張する。」「子どものこと考えとるらしい。でも、こっちは経済やし…、悩むな…」など、選挙の投票が初めてということで、皆さん緊張しながら準備していたのを覚えています。

それから早くも半年。毎日の食事、仕事、恋愛、友達、赤ちゃんを出産した方もいました！初めての子育ての始まりです。「今の仕事が楽しいです！やりがいを感じます！」という元気な若者の声も聞かれます。日々の様子を仕事の帰りに寄って話してくれます。「疲れた～。ちょっと、聞いてもらえる？」という言葉に話に聴き入ります。屈託なく話すように見えても、心の奥深くに残っている過去のこと「職場や他では、話せんけど、ここなら、みんな同じだし…」と言って、話してくれる内容には、それぞれの背負った背景があります。

でも、懸命に生きている姿を感じ続けます。「コップからもうあふれてしまうことだらけ…」という泣きたいことを誰にも言えずに抱え続けている。そんなことをちょっとでも話し「ここで笑い合い明日への糧を、この仲間たちと取り戻して…」と願いながら今日も開放日を過ごします。「一人じゃないよ。みんなかけがえのない大切な、大切な存在だよ！一歩一歩、自分らしく。」と、心の声を送りながら。

居場所スタッフ　織野　順子

アフターケア事業所　わっかっか
〒760-0063　香川県高松市多賀町２丁目 11-13　２階
TEL:087-802-6681　FAX:087-802-6682
E-mail:wakkakka2017@air.ocn.ne.jp

アドボカシー事業所
ここまいつうしん

≪ こんにちは、はじめまして ≫

私は昨年 11 月から「チームここまい」で子どもアドボカシー活動をしている尾﨑(おざき)と申します。「パンダの好きなしゅんちゃん」と覚えてくださると嬉しいです。前号で、チームメイトの福田さんが、「子どものこころのマイクになる」ことについて書いていましたが、私もこのことをいつも心がけています。

私は 36 年間、専門職であるソーシャルワーカーとして働き、定年で退職しました。組織の中のソーシャルワーカーの仕事に限界を感じてきたので、今はフリーランスのソーシャルワーカーとして仕事をしています。ですが、「ここまい」での独立型子どもアドボカシーの活動は、養成講座の中では「専門職の帽子を脱がないといけない」と教わりました。子どもの心に寄り添い、子どもの声をしっかりと受け止めることに「専門職の帽子」が邪魔をすると言うのです。専門職としては子どもやその家族、それを取り巻く環境についての情報を収集し、アセスメント（評価）し、必要な支援の計画を立てるのが癖になっています。でもそのようなことは子どもアドボカシー活動には必要ないのです。

まず、ひとりの人間として、ありのままの自分を見せ、「この人は信頼していい人だ」と子どもに感じてもらえる努力をする。子どもが自分を信頼して胸の内を話してくれたら、子どものことばに耳を傾けてただひたすら聴く。そして「マイク」になってほしいと求められたら、そのことに専念するのです。出会った子どものステキな笑顔を見ると、アドボケイトになってよかったなと思います。

子どもアドボケイト　尾﨑　俊二

≪ 子どもアドボカシー養成講座を開催しました！ ≫

9 月 9 日～11 月 18 日の 7 日間、NPO 法人全国子どもアドボカシー協議会さんとの共催で“子どもアドボカシー養成講座 in 香川”を開催しております。

およそ 40 名の方にご参加いただき、講師には、専門職の方や、アドボカシー実践者、社会的養護経験者の方々に子どもの人権やアドボカシーの体系、当事者から見るアドボカシーについてなどご講義いただき、学びを深めることができております。

子どもアドボカシーは、すべての子どもたちに必要であり、地域で生活をしている沢山の方々にアドボカシーや人権について発信し、理解して頂くことも私たちアドボカシー事業所の役割であることを再認識しました。

一緒にアドボカシー活動する仲間を募集しております！

・施設や里親家庭を訪問するアドボケイトさんを募集しております。
・アドボカシー活動を普及啓発することや訪問活動を支える方を募集しております。
　ご興味のある方は、ここまいスタッフまでご連絡下さい。

アドボカシー事業所　ここまい
〒760-006 香川県高松市多賀町 2 丁目 11-13　2階
TEL:087-802-5727　FAX:087-802-6682
E-mail:cocomai2022@atbb.ne.jp